

■上田萬年 啓蒙時代の言語学者の一人として現代の国語学の生みの親となり、新村出はじめ多くの後進を育成した。

うえだかずとし

大政奉還・1867= 江戸大久保の名古屋藩下屋敷で、藩士上田虎之丞の長男に生まれる。母はいね子。

明治維新・1868= 1歳：

初の日刊新聞1870= 3歳：父がコレラで死去。

明治6年政変 1873= 6歳：この年、バジル・ホール・チェンバレンが来日。

三つの反乱・1876= 9歳：

大久保暗殺・1878=11歳：東京府第一中学正則科に入学、幸田露伴、尾崎紅葉、狩野亨吉らと同級。

・ ・ ・ ・ ・ 1880=13歳：本所の藤堂邸内住んで、伊勢国から上京してきた斎藤緑雨と知り合い、その影響で文学に目覚め、

明治14年政変1881=14歳：府立一中でも同級になり、同人誌も一緒にやるなど、以後、長く親交、

内閣発足・1885=18歳：東京大学文学部(翌年、帝国大学文科大学と改称)和漢文学科に入学、バジル・ホール・チェンバレンに師事、論文「日本語の最古の語彙について」の執筆を手伝い、

初の対等条約1888=21歳：*(日本アジア協会)誌に、共著者として発表される特別扱いを受けて、卒業し、大学院に進学。

帝国憲法発布1889=22歳：{日本大家論集}に、初の論文「日本語研究法」を発表、以降、7本の論文を書いた後、

帝国議会始・1890=23歳：命じられてドイツ留学、

ベルリン大学で、ガーベレンツに師事、当時最高の言語学に加え、東洋学の広さと深さを学ぶ。

大本教・1892=25歳：続けて、フランス留学も命じられ、

国語の創設と日本語研究を目標として、欧州の言語学を研究、

日清戦争始・1894=27歳：*帰国。帝国大学教授(博言学講座担任)に任ぜられる。華の哲学館で「国語と国家と」講演、感激した一高2年の新村出が博言学を志望するようになった。

日清戦争終・1895=28歳：村上鶴子と結婚。{大日本教育会雑誌}に「教育上国語学者の抱棄し居る一大要点」、雑誌{太陽}に「欧州諸国に於ける綴字改良論」を発表。雑誌{帝文学}を創刊し「標準語に就きて」を発表。{富山房}から「国語のため」を出版、社長坂本嘉治馬と昵懇になる。国語調査会の必要性について講演。

白馬会・1896=29歳：新村出が文科大学に入学してきて、弟子となる。図書編纂審査委員に任命される。

八幡製鉄始・1897=30歳：{教育時論}に「国語会議に就きて」。一番弟子芳賀矢一と、文科大学内に「国語研究室」を創設、主任となる。

子規句歌革新1898=31歳：文部省専門学務局長兼文部相参与官に任ぜられる。{帝文学}に「古代日本語のハ行音はP音だったという「P音考」を発表し大反響。新村出らと言語学会を、井上哲次郎らと(国語調査会に向け)国語改良会を設立。

Bushidou・1899=32歳：長男寿が誕生。国語学国文学国史第三講座分担。菊池大麓総長の推薦で「文学博士」。

ピアノ国産化・1900=33歳：*博言学講座を言語学講座と改称し、{言語学雑誌}創刊。新村出らと{言文一致会}結成。文部省に設けられた国語調査委員会委員となる。

田中正造直訴1901=34歳：長女千代が誕生翌年まで、文部省専門学務局長を兼任。

日比谷公園・1903=36歳：「国語のため2」を出版。

日露戦争始・1904=37歳：斎藤緑雨が死去。教科書調査委員。「舞の本」を出版。

日露戦争終・1905=38歳：次女富美(のちの作家円地文子)が誕生。「国語学国文第一講座」に転任。

アヲブ創刊・1908=41歳：臨時仮名遣調査委員会で司会を務めるも、森鷗外ら大物委員の抵抗で、新仮名遣い不採用、実現は戦後まで40年かかることになる。国語調査委員会主事を辞任。帝国学士院会員。

韓国併合・1910=43歳：離日するチェンバレンから、蔵書を寄託される。

明治天皇没・1912=45歳：東京帝国大学文科大学学長となる。

大正政変・1913=46歳：この年、国語調査委員会が廃止された。

第一次大戦始1914=47歳：欧米各国へ出張。

21ヶ条要求・1915=48歳：帰国。「松井簡治と共著「大日本国語辞典」の刊行開始。

民本主義・1916=49歳：橋本進吉と共著「古本節用集の研究」を出版。中国出張。

ロシア革命・1917=50歳：東洋文庫創設に尽力。

ベル仁条約・1919=52歳：文科大学が文学部と改称される。「神宮皇学館長」に任ぜられる。

原敬首相暗殺1921=54歳：臨時国語調査会が発足、森鷗外会長のもと、委員になる。「文学部長解職」。

水平社結成・1922=55歳：森鷗外が死去。

関東大震災・1923=56歳：欧州出張。関東大震災の日に帰朝し、品川沖から惨状を望見。チェンバレン旧蔵書は、すべて灰燼に。

護憲三派圧勝1924=57歳：御講書始で進講。財団法人東洋文庫が設立され、理事に就任。

治安維持法・1925=58歳：日本音声学協会創立して初代会長。学士院選出貴族院議員となる。

円本時代始・1926=59歳：東京帝国大学教授を停年退職し、國學院大学長に就任。

金融恐慌・1927=60歳：

共産党事件・1928=61歳：*「大日本国語辞典」全5巻が完結。國學院大学長を辞任、

以後、毎夏、鎌倉の{富山房}社長坂本嘉治馬の別荘に避暑に行き、

海軍軍縮条約1930=63歳：樋口慶千代と共著「近松語彙」出版。

満州事変・1931=64歳：貴族院議員を辞め、白内障手術のため入院。

帝人疑獄事件1934=67歳：軽い脳溢血を起こし、

芥川直木賞始1935=68歳：この年、チェンバレンが死去。「直腸癌(家族に末期癌の宣告)によって、

日中戦争始・1937=70歳：没した。